

ご挨拶



早稲田大学 常任理事 大塚 宗春

ただいまご紹介にあずかりました常任理事をしております大塚と申します。早稲田大学を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げたいと思います。

本日はご多忙のところ、第21回産研アカデミック・フォーラム「企業の『社会的責任』を考える」に多数お集まりいただきまして、大変うれしく思っております。

今回は、東洋英和女学院大学教授であり、また同校の社会技術研究所長である岡本浩一先生をお迎えいたしまして、商学学院の八巻和彦先生、中村信男先生、厚東偉介先生のご講演、質疑応答がございます。お忙しい中、本日の講演をお引き受けいただきました先生方に、心より御礼を申し上げます。

今回のテーマであります「企業の『社会的責任』を考える」は、非常に古くて新しいテーマであると思っております。私の学生時代にも企業の社会的責任、企業は社会的公器であるという議論が盛んになされたことを思い出します。今回、2011年の3.11の東日本大震災を契機に、また改めて企業の社会的責任を考えなければいけない新たな事態が生じてきているという問題意識のもとに、このテーマが選ばれたと考えております。本日、皆様方のご活発な質疑応答があることを期待しております。

ところで、私は大学を代表して来ましたので、「早稲田大学ビジョン150」について申し上げます。ビジョン150、すなわち150周年、今、早稲田大学は130年ですから、今から20年後についてです。ビジョン150というものを昨年(2012)年11月に発表いたしました。「早稲田ビジョン150」は、創立150周年、2032年を念頭に置き、言いかえますと、今生まれた子どもたちがちょうど早稲田大学で学んでいる、そのときに早稲田大学はどういう姿であるべきかということを考えているものであります。

この中の一つ目としては、基本的な学生像は、今も変わらないのですけれども、いわゆる世界に貢献する高い志をもった学生が集う大学だということ。それから、二つ目に研究面で言えば、世界の平和と人類の幸福の実現に貢献する研究が行われていること。三つ目としては、卒業生との関係。四つ目としては、大学のガバナンスの関係などがあります。そういう四つの面から、今から20年後の早稲田大学を念頭に置きながら、それに向かって一步一步進めていこうということを行っているわけです。

たとえば、世界に貢献する高い志をもった学生ということになりますと、英語はもとより、むしろ現地語もできるような学生を育てようではないかと。そのために、早稲田大学は国際化戦略

をますます進めていかなければならないということで、たとえば留学生1万人計画というようなこともこの中にうたわれています。こうすることで、早稲田大学は、これからさらに日本の、またはアジアのリーディングスクールとして世界に貢献していきたいと考えているわけです。

本日は、この中の研究面ですけれども、こういったアカデミック・フォーラムというような形で、早稲田の研究が世界に、世の中に開かれていくということは非常に重要なことだと思います。

私は、本日の「企業の『社会的責任』を考える」というアカデミック・フォーラムの研究または討論が、言ってみれば皆様方が本日来てよかったとお感じになるような会合になると確信しております。ぜひ最後までおつき合いいただきたいと思います。本日は皆様、本当にお忙しい中お集まりいただきまして、どうもありがとうございます。

私の挨拶は以上といたします。どうもありがとうございました。